



相談支援事業所
はなのき

2022年度行動計画

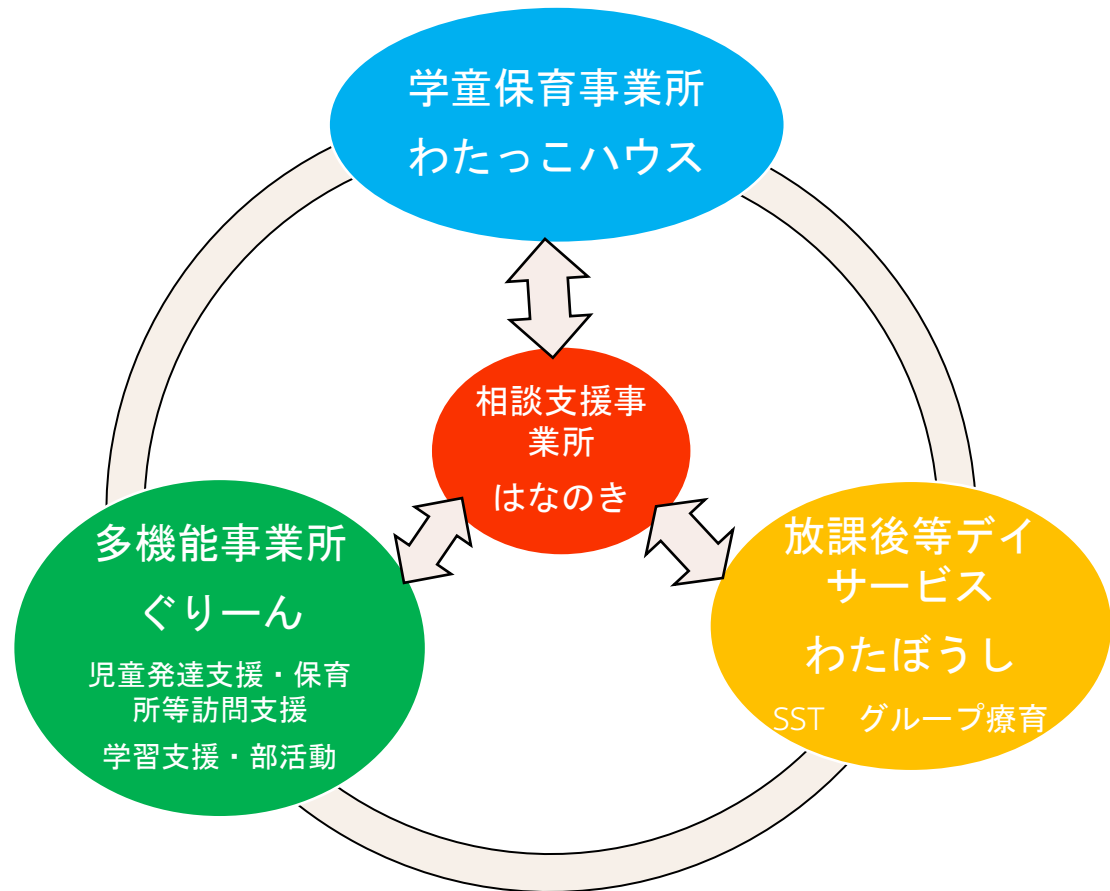
基本目的

相談支援事業所はなのきでは、従来の相談支援事業の役割のみではなく、法人内の事業所でのイノベーションが推進できるよう各事業所を支援していきます。

法人内外を問わず得た情報やサービスを共有し、フィードバックすることで支援の質を高める必要があると考えています。

また、法人の良さを外部に伝える役割も担って行きます。

はなのきの法人内での役割 ～チームアプローチの実践～



学童保育事業所

合理的配慮が必要な児童に対して適切な支援に繋げていきます。

各放課後等デイサービス

それぞれの事業所の強みを理解し、情報の伝達や支援の共有をし、具体的に実行可能な支援の方法を提案していきます。



はなのきの相談員

相談支援事業所はなのきの相談員は、アセスメントがとれ、具体的な支援方法が示せる相談員を目指します。



～具体的な支援方法が示せる相談員～

- ①本人をよく知る
- ②保護者をよく知る
- ③現場をよく知る

①アセスメント力を高める

一人ひとりに合ったアセスメント方法を使っています。

初期のアセスメントツールとしてS-M社会生活能力検査を使ったアセスメントの実施し、おおよその社会生活能力の発達を捉えています。

より専門的なアセスメントが必要な場合は臨床心理士に検査を依頼したり、検査の実施が難しい場合は丁寧な観察や関係者からの聞き取りを行い、必要な支援方法の検討が出来るようにしていきます。

②主要な関係機関との連携

担当児童が利用している事業所を中心に訪問し、事業所の強みを理解します。

学校や病院等にも訪問し関係機関と連携が取れるようにすると共に、法人の強みを発信していきます。

2022年度 達成目標 988,000円

障害児相談支援給付費

障害児支援利用援助費（I）	1ヵ月につき1692単位
継続障害児支援利用援助費（I）	1ヵ月につき1376単位
行動障害支援体制加算	1ヵ月につき35単位
サービス提供時モニタリング加算	1ヵ月につき100単位
サービス担当者会議実施加算	1ヵ月につき100単位

計画の更新と
学期毎のモニタ
リングを実施

コロナ感染症拡大のリスクと収益

リスク

コロナ感染症拡大時は、事業所や学校への訪問はできないことも予想できますが、リモート会議や感染拡大していない時を中心に訪問を実施していきます。

収益

リモートでの対応ができるため、コロナ感染症の影響は受けずらく収益予想も立てやすい事業です。

法人が目指す相談支援事業所のあり方を考えると、労働に見合った対価は得るのは難しいと思われる。

社会貢献

短期目標

1人ひとりに合ったアセスメントツールを見つけ、質の高いアセスメントが取れるようになっていきます。

長期目標

アセスメント方法を確立し、地域の相談支援事業所へも普及を図っていきます。